

The Kamenori Community かめのりコミュニティ

公益財団法人 かめのり財団は、日本とアジア・オセアニアの若い世代の交流を通じて、
未来にわたって各国との友好関係と相互理解を促進するとともに、
その架け橋となるグローバル・リーダーの育成を目的に事業を行っています。

 公益財団法人
かめのり財団
Kamenori The Kamenori Foundation

2014年7月 No.16

今号の内容

- ◇新理事長からの挨拶
- ◇大学院留学アジア奨学生
新奨学生3名が仲間入り、そして修了生の旅立ち
- ◇高校生交換留学プログラム
日本語、日本の文化を学びたい！
ーアジアから高校生が来日
- ◇第8回かめのり賞 募集案内
- ◇海外日本語教育サポート事業
ベトナム中等学校長訪日事業
- ◇かめのりコミュニティ仲間からの便り(特集号)

かめのり大学院留学アジア奨学生 新奨学生が仲間入り
役員、選考委員、OB・OGが集まり交流会



新理事長からの挨拶 2014年2月に理事長が交代しました。



かめのりフォーラムでの写真

この春、かめのり財団の理事長に就任いたしました木村晋介です。弊財団は、日本とアジア・オセアニア地域の若い世代の交流や人材育成を通じて、相互理解や友好を深めることを目的としています。

私自身がカンボジアでの人材育成事業に強い関心を持ち、あらゆる支援の中でも人材育成の大切さを強く感じています。

財団のコンセプトは、奨学金で「育てる」、グローバル&ローカルな交流で「拡げる」、そして

かめのり賞等で「誉める・励ます」の3つです。

支援する学生たちには、「学ぶこと」、「ふれあうこと」、そして「絆を確かなものにするこ

を望みます。
また、私たちの持つコンセプトを草の根で支えてくださっている皆さんに、心から感謝いたします。そして、皆さんの努力によって、若者諸君が、国際的視野に立って地域の強い絆で結ばれ、大いに活躍をしてくれることを期待したいと思います。

大学院留学アジア奨学生

新奨学生3名が仲間入り、そして修了生の旅立ち

新たに3名の奨学生を迎え、2014年4月5日(土)に新奨学生オリエンテーションと修了生のお祝い会を行いました。また、役員をはじめOB、OGも出席し、年に一度の貴重な場となる交流会を開催しました。

初めは緊張した面持ちで自己紹介をしていた新奨学生でしたが、後半の交流会では、役員や奨学生の仲間との会話が弾み、励ましの言葉をもらうことで、奨学生としての決意を改めて抱き、研究生活の次のステップへの良いスタートを切りました。

また、3月で奨学金受給が終了した3名の修了生は、奨学生としての日々を振り返り、これまでの支援への謝意を表し、新たな環境での活躍を誓いました。

役員や選考委員は、奨学生の研究に対する熱心な姿勢に将来有望なグローバル人材としての期待が高まり、若いエネルギーにパワーをもらう一方、奨学生は、豊富な経験を持つ人生の先輩との会話に、大学院での研究生活とは異なる知識を得ることができました。



新奨学生の紹介



胡 新祥 (コシンショウ)
中国
立教大学大学院
文学研究科日本文学専攻
(博士後期課程)

【研究テーマ】
新漢語についての研究

新漢語とは主に幕末以降、日本の先覚者が西洋の新しい概念を日本語に取り入れた時に、独自に考案してできた和製漢語のことです。「経済」「哲学」「人民」「革命」など現代中国語と日本語にも新漢語が多数存在しています。私の研究により、ある特定分野の基本概念となる新漢語の誕生、伝播及びその定着などを究明したいと考えております。

この度、かめり財団2014年度の奨学生として選ばれ、大変嬉しく思い、感謝の気持ちでいっぱいです。奨学生となったことをきっかけにかめり財団の設立趣旨、今までの歩みなどを多く知り、我々アジア留学生を支援する財団の姿勢に大いに感動しています。この貴重なチャンスを活かし、勉学に励み、学業を遂行していきます。私は、中国の大学に戻る予定なので、勉強だけではなく、積極的に日本の社会と文化も肌で感じ、ありのままの日本を中国の若者に伝えていくことが自分の役目だと考えています。



姜 哲敏 (カンチョルミン)
韓国
筑波大学大学院
システム情報工学研究科
社会工学専攻(博士後期課程)

【研究テーマ】
日本における将来住宅需給に関する研究

私は、都市経済学という大きなテーマの中、将来の住宅の需要を予測する研究を行っております。そこでは、今後の人口減少時代に備え、将来の人口や経済状況を考えた最適な住宅の需要量を提案することを目的としています。

今後かめり財団の奨学生としては、日本に対する深い理解を持ち、これを周りの人々に教えられる人になりたいです。今の日韓関係では、お互いに対する理解が足りないためいろいろな問題が起きていると思います。例えば、韓国はよく言えば歴史を大事に考え、悪く言えば昔のことにこだわる民族です。しかし、日本は昔のことは水に流して、これからのことを大事に考える民族です。このような民族性の違いが分かるだけで日本人は韓国の行動が、韓国人は日本の行動が少しは納得できるようになります。

私は日本留学を通じて、専門分野での知識のみならず日本の歴史や文化を学びたいです。それから、小さな役割ですけれども、私自身が得た日本に対する知識を周りの人に伝えることにより、両国の友好に寄与したいです。



洪 駿 (コウキ)
中国
早稲田大学大学院
法学研究科公法学専攻
(博士後期課程)

【研究テーマ】
日本国憲法における地方自治の研究
—特に「補完性原理」という視角から

憲法学には人権と統治機構という二大分野があります。私は後者の中の地方自治という課題を扱ってきました。修士段階で日本国憲法第八章における地方自治の意味を補完性原理という視角から解釈しようと試みました。博士課程も、引き続き公法学および行政学などの視座から基礎自治体中心の政府間関係論を構築しようと考えています。

憲法学ないし法律学全般では「人」というのが核心的な要素をなしていると思われます。地方自治の分野で言うと、それは、住民自治を何よりも重視することを意味します。「初心忘るべからず」「人」本位の考え方はまさに法学者の「初心」にあたると思います。

私は将来、中国の大学で法律の教員となり、統治機構の分野を通じて、わずかながらでも祖国の近代化に貢献できればと思います。さらに、長年にわたる留学生活の経験に基づき、平和憲法の下における日本の在り方を中国の若者たちに伝えることができればよいと思います。

修了生からのことば

未来をつなぐ修了生たち。4月からそれぞれの場で活躍しています。



金 旻貞 (キムミンジョン) 韓国
2014年3月 京都大学大学院人間・環境学研究所 博士後期課程単位取得退学
2014年4月 福岡県九州歴史資料館勤務

「春桂問答 — 自分らしい生き方を目指して」

2014年3月31日にかめり財団の奨学生を、そして博士後期課程を修了しました。4月からは福岡県九州歴史資料館の保存科学研究室に勤務し、有機・無機質遺物の保存処理をおこなっています。近隣は弥生時代の集落遺跡である三沢遺跡で自然豊かな森にもなっています。仕事は、体力がとて必要とされますが、この遺跡が通勤経路にもなっており、いつも新緑から力をもらい生活しています。日々樹木を見て

いると人間の手足のようにも見え、人間と同じ様に樹木の一生もいろいろあるように感じています。また成長スタイルで共感を覚える樹に出会ったりもします。そんな時に思い出すのが「春桂問答」(唐・王績作)という詩で、「花が咲く時期が違うように人もそれぞれ違うだろう、自分らしい生き方をしたい」という解釈があります。私は、文化財といわれる空間、その芸術の場で受ける心の響きがとても好きです。世の中



豊かな自然に囲まれた九州歴史資料館

で少なくとも同じ感性を持つ人は必ずいると思うので、私は文化財という領域で、その中でも木製品の彩色という分野で社会の一員として人と人を、時間と空間を繋げる人になりたいと望んでいます。

最後に、この3年間、支援をいただいた皆様に心より感謝申し上げます。



徐 寧教 (ソヨンキョ) 韓国
2014年3月 東京大学大学院経済学研究科 博士号(経済学)取得

「日本での9年間、そして未来へ」

私は、2014年3月に東京大学大学院経済学研究科にて博士(経済学)の学位を取得しました。博士学位論文のタイトルは「グローバル知識ネットワークのダイナミクス」です。この論文では企業が本国本社で持っている知識をいかに国内の別の拠点、または海外の拠点に移転し活用するかについて論じたものです。その際、日本のトヨタ自動車と韓国の現代自動車を事例

にとって比較研究を行いました。かめり財団で奨学金をいただき、奨学生として3年間を過ごし、研究していた内容が本の一部として出版されたり、学会で院生優秀論文賞に選ばれたりするなど、稚拙ながらもいくつかの業績を残し、最後には博士学位を取得することができて嬉しです。今は、学部の中から9年間過ごした日本を離れ、韓国に帰国してい



経済学部総代として 学長より学位記授与

ます。そして兵役の義務を果たしていくことになります。兵役が終わったら日本に戻って研究の道に就きたいと考えております。研究活動を続けると共に経営学を教える仕事を通じてグローバル社会に必要な人材を育てることが私の夢です。



金 智愛 (キムジエ) 韓国
2014年3月 立命館大学大学院社会学研究科 修士号(社会学)取得
2014年4月 小売サービス業の企業に勤務

「文系知識理論と現場実務の融合、そして世界を舞台に活躍」

私はかめり財団奨学生として2年間、立命館大学社会学研究科のGlobal Projectで日韓国際比較社会調査から得たデータを量的分析しました。論文のタイトルは、「日韓のメディア接触による外国人意識への調査」でメディア接触によって、人々が思う外国人のイメージが影響されるかについて調査しました。日韓両社会でみられた共通点は、メディア接触や既に人々の頭の中に存在する政治観、特に保守的な政治

観により、外国人に対するイメージが形成され、影響を与えている可能性が示された点でした。かめり財団のおかげで、夏の研修会やフォーラムなどで幅広い人的交流ができ、優秀な先輩や同期からさまざまなコメントをいただきより成長する時間でした。私は、今後、顧客データを分析する仕事をしていく予定ですが、現在は、現場経験を積むため店舗勤務をしています。大学院で学んだアカ



2014年2月 Global Projectで 韓国の中央大学で学会発表

デミックな知識と現場で求められる仕事能力を合わせ持つ、有効に使える人材になりたいです。今後、さまざまな国や地域の文化を理解し、さらに日本留学から学んだ日本の文化など、将来的に交流の場における架け橋として役割を果たし、国際舞台で活躍できる人になりたいと思います。

OBからの便り

心にある思いや近況をつづってくださいました。



姜 性湖 (カンソンホ) 韓国
2007年～2009年 かめのり財団奨学生
現在、建築設計事務所勤務

「かめのり財団との絆」

学生の頃、日本建築に惹かれたことをきっかけに留学し、2年間かめのり財団の大学院生1期奨学生としてお世話になり、明治大学大学院理工学研究科建築学修士課程を修了しました。その後、大学院で学んだ建築を実現したく、建築設計事務所に就職し、街づくりや都市開発、建築設計など建築業に携わっています。

日本の大学院で学んで得られたのは、都市的視点からみた都市建築デザイン手法はもちろん、全国各地でワークショップを行い、街歩きをしながら都市スケールを感じ、現地の住民との交流や調査を行うことで、改めて街の良さや問題を肌で感じられることでした。現在の仕事では、その時の研究と体験を活かしながら、日本の街に相応しい建築や街づくりに取り組んでいます。私の仕事が住みやすい住環境につながれば、社会人として社会に貢献できると思うと同時にかめのり財団からのご支援に恩返しができるきっかけになると思います。私は、この目標に向かって日々努力し続けています。

そして、4月のかめのり財団新奨学生との交

流会に、私もOBとして参加させていただき、かめのり財団の役員や選考委員の皆さん、現奨学生と貴重な時間を過ごしました。新奨学生たちの大きな抱負や明確な目標を聞き、同じ留学生としてそれからかめのり財団の先輩として素直に嬉しかったです。新しい環境や異文化に対し、自分の夢に向かって前に一歩、踏み出そうとする新奨学生を見て、心強く感じました。

あの頃の自分のことも甦ってきて、前向きに頑張っていた留学生在が懐かしく感じられました。当時は、授業や課題、ゼミ活動など多忙な日々でいつも時間に追われる生活でした。しかしそんな大変な毎日が私にとっては成長する機会になり、今は大きな財産になったと思います。後輩たちや新奨学生のみなさんにも初心を忘れず、最後まで頑張ってください。

かめのり財団と奨学生の間には、奨学金を超えた強い絆が感じられます。第三者から見ると単なる金銭的な支援にしか見えないかも思いますが、我々にとってかめのり財団は



職場での様子



私の好きな風景 (京都祇園)

留学生活での困ったことや進路の悩みなどを打ち明けられる仲間にもなります。そして日本にいる唯一の親でもあります。そんな大きな存在であることをかめのり財団を修了し、社会人になってからようやく気付きました。時には親のようにやさしく見守ってくださいし、時には友達のように何でも相談できるかめのり財団をこれからも家族のように大切にしていきたいと思っています。

Congratulations!

博士号(政策科学)取得

金東煥さん(キムドンファン/韓国)

2008年から2年間、かめのり財団奨学生だった金東煥さんが、3月に立命館大学大学院政策科学研究科にて博士の学位を授与されました。博論のテーマは、「候補者指名方法の研究—日韓における候補者指名方法の開放を事例に—」。韓国の民主党の候補者選定過程と日本の自民党の候補者選定過程を事例として取り上げ、最近、世界的趨勢となっている候補者指名方法の開放という現象について、分析を行いました。4月からは、立命館大学地域情報研究センターの客員研究員として研究を続けています。



「6年前にかめのり財団の奨学金のおかげで日本に留学することができ、財団の方々のおかげで、日本で安心して勉強することができました。振り返ると、奨学生だった初めての2年間が一番楽しく過ごすことができました。改めて感謝いたします。」



ご結婚おめでとう

3月に奨学生のHtet Htet Nu Htayさん(テッテヌティー/ミャンマー)が、日本在住のミャンマー人男性とご結婚されました。いつもそばでサポートしてくれる心強い伴侶を得て、ますますの活躍を期待しています。

「3月23日に行われたミャンマー・ヤンゴンでの結婚式にはお世話になった大勢の方々にお祝いいただきました。日本に来て10年以上経ちますが、結婚式を挙げられたことは日本で支えて下さった皆様、ミャンマーで応援して下さいました皆様のおかげです。結婚式では親戚や恩師、お世話になった方々から、将来的にはミャンマーへ戻ってミャンマーと日本の架け橋となって欲しいと言う言葉をいただきました。皆様の恩を忘れず頑張っていきたいと思っています。」

高校生交換留学プログラム

日本語、日本の文化を学びたい！ーアジアから高校生が来日

(公財)AFS日本協会の実施するプログラムで2014年3月19日(水)に7か国・地域から8名の受入生が来日。来日時に行われた懇談会では、自己紹介とともに留学中の目標を発表し、また、かめのり財団や奨学生としての心構えについて西田浩子事務局長から話があり、弊財団の活動への理解を深めました。

ホームステイをしながら高校に通い始めて、3ヶ月あまり。想像以上の言葉の壁や文化の違いに戸惑い悩みながらも高校では部活動に参加し、友だちも増えてきました。ホストファミリーや地域の方々に支えられながら、異文化での生活を楽しんでいます。



日本に対するイメージ

「日本の人々は、礼儀正しく勤勉」
「革新的な技術やポップカルチャーに見られるように創造性豊かな人が多い国」
「美しくきれいな国。食べ物もおいしい」

日本滞在中やってみみたいこと

「ホストファミリーや友だちと桜を見たり、富士山や歴史的な場所を訪ねたい」
「田植えをしてみたい。タイと日本の農業の違いを知りたい」
「韓国への理解を深めてもらえるよう努力したい。家族ともよい思い出を作りたい」

将来の夢

「学んだ日本語を生かし、優れた日本語の通訳になりたい」
「日本と韓国をつなぐ架け橋となり、お互いがより発展していけるような関係作りを寄与したい」

滞在中の目標

「本をたくさん読み、日本の歴史を学びたい」
「日常生活の中で、日本語を一生懸命学び、友だちをたくさん作りたい」
「できる限り多くの日本の文化を学ぶと同時にインドの文化を料理や音楽などを通じて伝えていきたい」



来日懇談会の様子

第8回かめのり賞 募集案内

かめのり賞は、日本とアジア・オセアニアの若い世代を中心とした相互理解・相互交流の促進や人材育成に草の根で貢献し、今後の活動が期待される個人または団体を顕彰します。これまでに、6個人、55団体を表彰しました。

本年度も募集の受付を開始しましたので、多くの方からのご応募をお待ちしております。(応募締切：9月12日(金)必着)



昨年度、第7回かめのり賞表彰式

対象個人/団体の資格

- ①NPO(非営利団体)、ボランティアグループ、個人であること
- ②5年以上の活動歴があること
- ③日本とアジア・オセアニアの架け橋となる活動を目的としていること
- ④過去5年間、かめのり賞の表彰を受けていないこと

対象となる活動

日本とアジア・オセアニアの若い世代を中心とした次のような活動

- ①国際交流・協力にかかわる活動
- ②多文化共生にかかわる活動
- ③国際貢献に携わる人材を育成する活動

選考基準

次の点を総合的に評価します。

- ・これまでの活動における貢献度
 - ・活動の継続性や自主性、独自性
 - ・他団体との有機的な連携や協働、地域との結びつき
 - ・今後の活動への期待と将来の活動の可能性
- さらに、特に次の2点について焦点をあてている場合は加点要素となります。
- ・アジアの国、地域、人々を中心とした活動展開
 - ・若い世代の相互交流や人材育成

詳しい募集要項、応募用紙はホームページからダウンロードできます。

第8回かめのり賞募集要項

<http://www.kamenori.jp/kamenorishou.html>

海外日本語教育サポート事業 ベトナム中等学校長訪日事業

かめのり財団 表敬訪問

東南アジアの中等レベルの日本語教育支援の一環として、国際交流基金ベトナム日本文化交流センターの実施する事業に助成しました。3月2日(日)～8日(土)の7日間、日本語を導入しているベトナム各地の中等学校(中学・高校)の校長を中心とした教育関係者を日本に招へいし、日本の教育事情視察と日本文化体験を通じた文化理解の促進をはかり、日本語教育のさらなる発展と各地での日本語教育への関心を高めることを目的に実施しました。



「訪日を終えて」

3月2日早朝、ベトナムから高校の校長・教頭をはじめとする教育関係者11名が日本に到着しました。今回の参加者の多くが初の訪日であり、訪日経験者も学校訪問や日本文化体験は初めてとなるため、全員が期待に胸を膨らませていました。

活動初日は荒川区立原中学校を訪問しました。原中学にはベトナム人の生徒がいて、学校についてベトナム語で紹介してくれました。その後、授業や学校活動の見学をしましたが、中でも生徒と一緒に給食をいただいた経験や生徒が掃除する姿が印象深く、参加者の中には帰国後に自分の学校でも同じことを採用したいという発言もありました。次の日は川崎市立橘高等学校を訪問しました。残念ながら期末試験の時期と重なり授業見学はできませんでしたが、教育方針の説明と学校のすばらしい設備に皆感動していました。



友禅染も体験



原中学にて、生徒と共に給食

全てが初めての経験でしたが、茶道体験では意外にもベトナム茶ほど苦くないという意見が出たり、新幹線に乗って訪ねた京都での視察では、幸運にも雪を見ることができました。京都の伝統的風景と東京の現代的な風景のコントラストは参加者に深い印象を与えました。

帰国前日の3月7日には、かめのり財団と国際交流基金を表敬訪問し、訪問団から今回の訪日事業に対する感謝の意が伝え

られました。また、日本側からはベトナムへの継続支援が表明されました。教育現場の指導者が日本の文化、教育制度を体験できたことは、今後のベトナムにおける日本語教育の活性化に繋がる貴重な一歩となりました。

報告：国際交流基金ベトナム日本文化交流センター
日本語事業担当 Assistant program officer
Ms. Vuong Linh Chi

今後の予定

- 7月 国際交流事業助成 交付式・ワークショップ・報告会
- 8月 高校生短期交流プログラム(第7期生派遣)実施(韓国)
高校生カンボジアスタディーツアー実施
にほんご人フォーラム2014開催
- 9月 大学院留学アジア奨学生 夏の研修交流会
- 10月 第6回中学生交流プログラム(派遣)実施(インドネシア)

≪ 編集後記 ≫

4月5日に行われた大学院生の会では、新しい仲間の「入学式」と巣立っていく仲間の涙あふれる「卒業式」という印象的な会になった。大学院生への奨学金支給を始めて8年。毎年採用人数も数名であることから、全体としても人数は少ないが、それゆえに、OBOG 含め温かな、深い関係が築くことができていると感じる。(菊地)

発行人 / 西田 浩子
編集 / 菊地 佐智子
デザイン / イワチサトシ (BUTI design)
印刷 / 佐伯印刷株式会社



日本とアジア・オセアニアの若い世代の交流を支援します！

公益財団法人 **かめのり財団** The Kamenori Foundation

〒102-0083 東京都千代田区麹町 5-5 共立麹町ビル 103

TEL : 03-3234-1694 FAX : 03-3234-1603

E-mail : info@kamenori.jp URL : http://www.kamenori.jp/